

第6回千葉県国土利用計画地方審議会調査検討部会 議事概要

- 1 日 時 平成21年12月24日(木) 午後1時30分から
- 2 場 所 きばーる13階 第3会議室
- 3 出席者(委員)
高橋(洋)部会長、親泊委員、佐藤委員、山田(多)委員、山田(利)委員
- 4 議事
 - 1) 開 会
 - 2) 報告事項
 - ・ 第1回千葉県国土利用計画地方審議会における論点
11月6日の千葉県国土利用計画地方審議会(第1回)において、調査検討部会による検討の中間報告を行ったが、この審議会における議論の内容と、議論への対応の方向性について事務局から説明を行った。
 - 3) 議 事
 - ・ 県土利用のモニタリング制度・計画評価制度(案)について
来年2月に開催される千葉県国土利用計画地方審議会(第2回)において、調査検討部会による検討結果の報告を行うが、その際に提出する報告書(案)について事務局から説明、意見交換を行った。
 - 4) その他
千葉県国土利用計画地方審議会(第2回)の開催日程調整について
 - 5) 閉会

6) 主な発言内容 (順不同)

「県土利用のモニタリング制度・計画評価制度に関する報告書(案)」について

< 指標について >

参考資料の表題である「主要指標地域別比較」の「主要」について、「ゾーン共通」以上の意味があるのか。ゾーン共通と同じ意味ではないか。

報告書の中で「ゾーン別」「地域別」という使い方をしているが、同じ意味で使用しているのならば、誤解のないように統一した方がよい。

指標が県全体のものか、ゾーン共通のものか、ゾーン独自のものが一目でわかるマトリクスのような資料があるとよい。

総括表の中の二重線(各ゾーン共通指標とゾーン独自の指標との境)の意味を記載しておいてほしい。

全体の指標の総括表の中の指標についても、どれがゾーンに使用されているのかわかるとよい。

(事務局)

上記の5つのご意見については、資料の追加、修正を行うこととしたい。

「その他」の指標の説明の中(「現状と課題」)では、公園緑地の面積について充実を図ることが重要」となっているが、データ推移の目標方向が減少方向になっているのは、どのように理解したらよいか。

今回はこれでよいが、次回からは自転車道路を増やすとか、ネイチャーウォークといったような視点についても配慮してもらえるとよい。

(事務局)

「その他」の中には、都市公園などの他にも、レクリエーション施設や沿岸域、耕作放棄地なども入っているために、全体として減少方向に向いているが、「現状と課題」のところの記述について検討し、誤解のないようにしたい。

< 規模の目標について >

規模の目標は、次回は前回の数値に変動率をかけるだけではなく、こういうふうにとっていこうという形が出てきてもよいのではないかと思う。

< 計画評価について >

今回の報告書は、事実はこちらであるということ、これを把握する意味では十分であると思うが、評価の段階では、県土の形をこうしたいというようなメッセージ

性が出てくるとよい。また、指標から読み取れる情報を解釈して効果的な政策につなげていくことを探っていただきたい。また、どこにパワーとコストをかければあるべき県土の姿に近づけるのかを探りつつ、評価につなげられるとよい。

<パブリックコメント結果について>

(事務局)

パブリックコメントによる県民からの意見は無かったが、今後2年毎にモニタリング結果を公表していくので、県民の意見はその結果を見てから出てくるのではないかと考えている。

(部会長)

意識が高まってくると良いと思う。そして、各ゾーンの問題を議論する場であるとか、土地利用の問題点を議論する機会が出てきて、活性化すれば良い。そうすることにより、国土利用計画が本当に重要なものになる。

<全体について>

計画の期間中に、計画全体の修正は無理でも、細かい字句の修正等ができる仕組みがあるとよい。

本日の議論の内容などを議事録として残すだけでなく、何か付帯意見のような形で残せるとよい。

(事務局)

審議会への報告書のかがみ文の中に、「この報告書を有効に活用してこういうことにつなげてほしいというような意見が出たので併せて報告する」というような文言を付け加える。また、審議会から知事への答申についても「これについて配慮するように」といった文言を加えるなど、方法を検討してみたい。